



リハビリテーションだより 6月号

～失語症とコミュニケーション～

脳卒中の後遺症として、高次脳機能障害という障害があります。今回は、高次脳機能障害の1つである“失語症”についてご紹介いたします。

●失語症とは

失語症は言語障害の一種で、「話す」「聞く」「読む」「書く」などの言語機能に障害が生じ、それらがうまくできなくなる状態です。

- 相手の話を理解出来ない
- 言葉が出てこない(喚語困難)
- 言葉を言い間違える(錯語)
- 文字が読めない、書けない

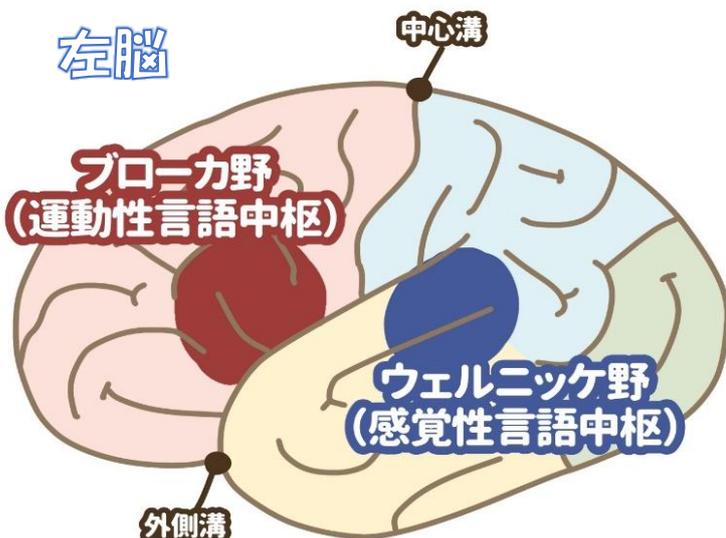


●失語症が起こる原因

人間は右利きの場合、9割以上の方が左脳に言語をつかさどる言語中枢(ブローカ野・ウェルニッケ野)を持っていると言われています。

失語症は、言語中枢が損傷を受けることによって、言葉をうまく

使うことが出来なくなる障害です。発症原因の約9割が脳梗塞や脳出血、くも膜下出血などといった脳卒中による後遺症だといわれています。また、その他の原因としては、交通事故などによる頭部外傷や脳腫瘍なども考えられます。



●失語症の方とのコミュニケーションをとるには

1. ゆっくり、短く、簡単に話す

失語症の方は言葉の意味を即座に理解することが難しく、意味を理解する前に次々に話が続いてしまうと、話の内容が分からなくなることがあります。話しかけるときは、ゆっくりと言葉の切れ目で少し間をおくようにすると話を理解しやすくなります。



また、できるだけ簡単な言葉を選んで伝えることも大切です。

2. Yes/No(答えやすい)質問で話す

失語症の方は言いたい言葉が出てこないことがよくあります。そのような時は、聞き手が言いたい内容を推察して、「はい」「いいえ」で答えられるような質問をします。

また、選択肢を2つ3つ用意し、それを紙に書いて選んでもらう方法も効果的です。

3. 非言語(言葉ではない)コミュニケーションの活用

失語症の方とコミュニケーションを図るには、ジェスチャーや表情・絵を描くなどの非言語的コミュニケーションを活用することはとても重要です。

失語症患者は全国に推定 50 万人程いると言われています。

失語症の方と関わる機会があれば、今回紹介した方法を活用しながら、楽しくコミュニケーションをとってみてください！

参考文献

失語症によるコミュニケーション障害—言語聴覚療法と言語的環境調整について— 森岡悦子 (2017)